

座頭市:キューバ人にとってのヒーロー

A Different Hero for Cubans: "Zato Ichi"

メインテーマは、キューバで公開された15本を数えるシリーズの『座頭市』について。俳優の勝新太郎が主役の「市」を演じた同シリーズは、キューバでは1967年から80年にかけて上映された。

講演では、キューバ芸術・映画産業庁による『座頭市』シリーズ獲得の意図と計画について話す予定。当時キューバでは、幅広い娯楽映画を国民に提供する必要があった。“サムライ映画”(チャンバラと“時代劇”)と見なされる日本映画が、キューバでいかに人気を博したか、勝新太郎と三船敏郎の人気と併せ、大衆レベルにおける抜きん出た成功例をデータで示す。盲目の按摩師で剣術使い『座頭市』のシリーズがキューバで上映された際の広範なデータと、その観客数について統計を交えて紹介する。勝新太郎がキューバを訪問した際のインパクトの大きさと、彼に寄せるキューバ人の深い親愛の情と賞賛の気持ちについて触れる。

また、ハリウッド的ヒーローの対抗モデルとして、キューバ芸術・映画産業庁が『座頭市』を戦略的に紹介したこと、その『座頭市』のイメージがキューバ庶民の想像力とどのように結びついているか述べる。

〈講演者〉 **Dr. Mario Piedra**
ハバナ大学教授

〈日 時〉 2012年11月8日(木)

16:30~18:00

〈会 場〉 駿河台キャンパス

リバティタワー1146教室

〈言 語〉 スペイン語

(日本語通訳あり)

〈講演推進者〉 越川 芳明

明治大学文学部 教授